

令和2年度第4回秋田県男女共同参画審議会要旨

■日 時

令和3年1月21日（木）13：30～14：30

■場 所

秋田県庁 正庁

■出席者

【秋田県男女共同参画審議会委員】

遠藤委員、金子委員、木山委員、小玉委員、高橋委員、竹田委員、長谷部委員、
松坂委員、山名委員

【事務局】

高橋あきた未来創造部長、信田次世代・女性活躍支援課長、新号次世代・女性活躍支援
課政策監ほか関係職員

■議 事

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

本日の審議会では、これまで委員の皆様から調査審議していただきました第5次秋田県男女共同参画推進計画の最終案について、秋田県男女共同参画推進条例第7条第3項の規定により、当審議会に対し知事から諮問されており、委員の皆様からご審議いただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次に会議の成立についてご報告をいたします。本日は委員10名中9名にご出席いただいておりますので、秋田県男女共同参画推進条例第22条第3項の規定により、会議が成立していることをご報告いたします。

(1) 会長の選出について

会長代理及び苦情処理部会委員の指名について

それでは議事に移りますけれども、審議会の議長は、秋田県男女共同参画推進条例第22条第2項の規定により、会長が務めることとなっておりますが、今回、委員の皆様の任期が昨年12月19日で満了となったことに伴い、委員の改選がありましたので、改めて会長を選出することとなります。議事（1）の会長を選出するまでの間、事務局にて議事を進行させていただきます。

議事に入る前にお諮りをいたします。審議会の会議は原則公開することとなっております。後日作成する会議要旨等についても、委員のお名前も含めて公表することとなりますけれども、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり。)

ありがとうございます。それでは、議事(1)の会長の選出の議事に入りたいと思います。本審議会の会長は、秋田県男女共同参画推進条例第21条第2項の規定により、委員の互選によって定めることとなっております。これにつきまして皆様、いかがいたしましょうか。

(「事務局案に一任」の声あり。)

ありがとうございます。事務局一任という声がありましたので、事務局案を提案させていただきます。会長は前任期期間に引き続きまして、秋田大学教育文化学部教授の山名委員にお願いしたいと考えておりますけれども、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり。)

よろしいでしょうか。では、会長は山名委員に決定いたします。それではここからの議事の進行は、山名会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○山名会長

会長を仰せつかりました山名裕子です。どうぞよろしくお願いいたします。

今回、第5次秋田県男女共同参画推進計画案について、実質、委員の皆様のご意見を伺えるのは最後となります。限られた時間ではありますけれども、忌憚のないご意見をいただいて、より良い推進計画となるように議論できればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、議事の(1)に関連しまして、会長代理及び苦情処理部会の委員につきましては、それぞれ、秋田県男女共同参画推進条例第21条第4項、秋田県男女共同参画審議会運営要綱第4の第1号の規定に基づき、会長が指名することとなっております。

初めに、会長代理については金子委員にお願いしたいと思いますが、お引き受けいただけるでしょうか。

(金子委員承諾)

ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、苦情処理部会については、4名以上の委員で構成されることとなっておりますので、4名の委員を指名させていただきます。遠藤委員、金子委員、竹田委員、長谷部委員にお願いしたいと思いますが、お引き受けいただけるでしょうか。

(遠藤委員、金子委員、竹田委員、長谷部委員承諾)

よろしいでしょうか。どうぞよろしくお願いいたします。

次に議事(2)第5次秋田県男女共同参画推進計画(案)に入りますが、事務局からの説明にありました通り、本日は14時30分頃の終了を目途として進めて参りますので、スムーズな議事進行について皆様のご協力をお願いいたします。それでは事務局から説明をお願いいたします。

(2) 第5次秋田県男女共同参画推進計画(案)について

●事務局(次世代・女性活躍支援課)

事務局より資料に基づき説明

○山名会長

それでは、ただいま事務局から説明があった第5次秋田県男女共同参画推進計画(案)について、委員の皆様よりご意見やご提案をいただきたいと思います。

○高橋委員

パブリックコメントについてですけれども、これだけたくさんの項目があるということと驚いているところですし、県外からもご意見があったということでしたが、このご意見を受けてどのように対応していくのか、どのように配慮していくのかということについて、教えていただければと思います。

●事務局(次世代・女性活躍支援課)

パブリックコメントでは、性的マイノリティに関して非常に多くご意見を頂戴しておりまして、要約して申し上げますと、他の県でも男女共同参画計画にLGBTQ、性的マイノリティの対策などについて記載して対応しているけれども、秋田県ではどのように施策を位置づけているのかといったところであります。

実際、他の県でそういった性的マイノリティの方々への対策としては、男女計画であったり、人権計画であったり、それぞれ独自に施策を位置付けて対策を講じているところであります。本県につきましては、先ほど担当の方から説明申し上げましたけれども、「多様性に配慮していく」というところは追記いたしましたが、今後本県においても、様々な差別や偏見の解消に向けた取り組みを検討していく予定としており、その中で、施策の位置付けや、理解促進に向けた啓発などを検討していく必要があると考えております。

今回、第5次計画の策定において、今の段階では、全体的な体系のあり方というものを

決めてからになると思いますので、計画の修正等が必要になった際には、本審議会にご審議していただきたいと思っております。

○金子委員

本計画につきましては、ざっとあらかじめ目を通させていただきました。これまでの議論等もしっかりと踏まえておりまして、目標となる数値もわかりやすいものが挙げられていると思います。県当局、事務局の方には大変なご難儀があったと思いますけれども、ご努力に敬意を表したいと思います。

せっかく素晴らしい計画案ですので、策定後はこれを上手く活用して欲しいということで、各方面にしっかりと浸透していただければと思います。計画案自体、ページ数はそれほどでもないものでありますけれども、一つ一つの言葉にエッセンスが非常に詰まっているというか、中身があるわけで、全体としては硬い言葉、硬い文章が並んでるという印象があり、正直非常に難しいと感じております。

多分ホームページで検索できても、一般の方はなかなか読みたいという感じではないのではないかと思います。性質上、仕方のないものかと思いますが少しもったいないという気がいたしますので、ぜひTPOに合わせて、概要版みたいなものも作っていただいて、中学生でもわかるような、極力わかりやすいものにしていただいて、もしかして漫画なんかも使っているのかもしれないかもしれませんが、普及させていただければありがたいなと思います。

関連して、普及啓発については興味のない方にどのように情報を届けるかということが課題だと思います。興味のある方や意識の高い人をターゲットにしてPRするよりも、情報の届きにくい人にどうやって情報を届けるか、興味のない方に、どうやってこちらを向いてもらうかということは、今後の取り組みの中で、いろいろと工夫していただければと思います。

それからもう一つ、私ども商工会連合会ですけれども、計画案の2ページに記載がありますが、県から受託してあきた女性活躍・両立支援センターを設置し、女性活躍推進法及び次世代法に関する一般事業主行動計画の策定支援を行っております。

直接、企業訪問して事業主の方と接する女性活躍・両立支援推進員の話では、企業における取り組み自体は非常に進んできていて、社会の雰囲気も変わってきていると感じているそうです。それでも、制度のことをよく理解していない企業がまだまだ多いことから、県民の意識改革を進める上でも、私どもとしましても県と共通認識を持って、連携しながら機運づくりや、普及啓発等について、推進体制の一翼を担っていきたいと思っております。

最後ですけれども、コロナの関係で自粛要請が続いている中、ステイホームだとか、在宅勤務時間が増えた影響で、家庭内における人間関係の問題、女性や子供へのDVが増えているということも報道でありました。秋田県の状況はどうなるんだろうかと心配で

ありまして、中央男女共同参画センターのハーモニー相談室への相談も増えているのかなと感じておりますけども、内容をしっかりと分析して、しっかりした対応をとっていたいただければと思います。

コロナ禍ということで、先ほど部長の話にもありましたが、リモートワークが注目されております。私の娘夫婦の話で恐縮ですが東京におりまして、娘が近くの会社に通って、旦那さんの方は少し距離があるので、都心に出ないために育児に専念しながら、在宅勤務、リモートワークをしているようです。こうした新しいスタイルというのは、性別による固定的な役割分担意識を切り崩すきっかけになるのかなと思います。秋田でもこうした新たな取り組みをどんどんやっていけばいいんじゃないかなと感じております。

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

男女共同参画推進計画についての普及啓発ですが、文字が盛りだくさんで少し難しいところがあると思います。概要版については、印刷物でまた改めて作成いたしまして、県民の方々に分かりやすい形で届けて参りたいと思っております。

また大人だけではなくて、中学生、高校生に対しては、当課の方で、男女共同参画副読本というものを作成しております、ちょうど来年度が改定の時期に当たりますので、そちらの方にも、現計画の内容をわかりやすく反映させながら啓発して参りたいと思っております。

次に、あきた女性活躍・両立支援センターですけれども、商工会連合会に受託していただきまして、大体4,000近くの事業所をこの3年近く、訪問していただいて非常に成果が上がってきているところであります。まだ最初の取り組みということで、この計画を策定することが中心となってきたておりましたけれども、今後、やはり男性の育児休業取得、あるいは女性の管理職の増加というところに向けて、そういった目標をしっかりと位置付けた内容で行動計画を策定されるよう、取り組んで進めて参りたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

またコロナの関係ですけれども、自宅にいる時間が長くなりまして、DVが増えているかというところですが、中央男女共同参画センターのハーモニープラザの相談状況を見ますと、昨年の3月、4月は若干相談が増えましたが、そのあとは落ち着いている状況にあります。

リモートワークにつきましては、委員がおっしゃるように、両立支援において、やはり育児にも非常に効果的であると思われ、男性がご家庭でお仕事しながら、お子さんの面倒も見れるというような利点もあると思われ、産業労働部の方で、こういったリモートワークを推進する助成を企業に向けてやっている中で、そういった働きやすい環境もつくっていただければと考えております。

○長谷部委員

男女共同参画社会基本法が施行されてからもう 20 年が経っています。国では担当大臣を置いて頑張っているようですが、なかなか国が掲げた目標の達成状況が芳しくないというのが現状ではないでしょうか。こういう中で今回、県においては第 5 次計画を策定するわけでありますが、掲げた目標の進行管理が重要ではないでしょうか。目標の達成状況を検証し、その結果を施策に反映していく、いわゆる P D C A サイクル、これを徹底していくことが一つ肝要だと思います。

それから、今、金子委員も申し出ておりましたが、常にいろいろな場面において啓蒙活動、P R が非常に大事ではないでしょうか。概要版とか、少々難しい内容でも中学生でもわかるという意識を持って、積極的な P R 活動をしていくというのが必要ではないかと思います。我々も可能な限り、協力していくつもりです。

○小玉委員

計画の指標について、推進の柱 1 の施策の方向 (2) の中で、「支援を通じて定着した若年女性の数」という項目で、目標値が実績値よりも、ものすごく希望を持った目標値で、すごく強気でいいなと思っておりますが、具体的な支援はどういったものなのか、もう少しお話を聞きたいなと思います。

定着や移住だったり、若年女性の方が定住されるということに関しての支援ということなのかと思うわけですが、支援の形もいろいろなパターンがあって、財政的な支援もあるでしょうし生活面もあると思うんですが、精神的な面もあるのかなと思ひまして、そういったことについてどう支援していくのかということをお聞きしたいと思います。

それから、コロナの現状は、今後どうなるかというのは本当に誰にもわからないような状況の中、今回のパブリックコメントにおいて性的マイノリティに関することがすごく多いわけですが、やはりいろいろな多様性という言葉自体が、何か私もすごく難しいなと感じています。そういったことの理解ですとか、発信の仕方というのがすごく難しいと思いますので、私も感じながら勉強しなければいけないと思いました。そういった意味では、マイノリティかもしれませんけれども、外国から来たお母さんとかも、現在コロナの状況で国に帰れないとかいろいろな面があるので、ぜひマイノリティの方たちに対しての柔軟な対応というのをお願いしたいなと思っております。

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

若年女性に対する支援の関係ですが、人口の社会減が続く中で、特に 15 歳から 39 歳の若い女性の秋田から県外に転出する数というのが、ずっと 2,000 人台で続いております。去年は、コロナで転出が抑制されて、1,800 人台になったものの、やはり一旦進学とか新卒就職で転出されると戻ってこないという傾向がありますので、そうした方々

を県内に呼び戻すための移住施策を他課で展開しておりますが、当課で実施する施策の方は、仕事を長く継続できるような形など秋田に定着してもらう対策を講じていきたいと思っております。具体的な内容については、来年度からスタートしていくものでありますので、また改めて、来年度の審議会でご紹介させていただきたいと考えております。

それから、多様性のところですが、委員おっしゃる通り、発信の仕方について我々も勉強しながらというところになりますけれども、そういった性的マイノリティの方々や外国人の方々を含めて、少数者の方たちも暮らしやすい環境づくりは必要ですので、先ほど冒頭に申し上げました通り、様々な差別や偏見等もございますので、全体の中で考えながら、対策を講じていきたいと思っております。

○山名会長

以前私もお話したかもしれませんが、指標の「支援を通じて定着した若年女性の数」について、この1,100人の目標値がすごく高い気がしております。具体的にどのように対策を講じていくかというのが今後の課題であるわけですが、今伺った県外に出られる方が2,000人前後のうち、半数以上が定着することを目指すというのはなかなかの戦略がないと難しいなと思って拝見しておりました。

○松坂委員

このパブリックコメントの一番最後に、どういう方が審議委員になっているのかという問いもあるようで、私は公募で委員になったわけですが、私自身は一つの町内会の会長となって、10町内会をまとめる町内会連絡協議会の会長も担っておりますが、計画の指標の中に、女性の自治会長の数が目標になっています。私自身が、そういう肩書きでこの場におりますので、女性の会長といいますか、要するに意思決定する場に女性がいるというのが、重要だと思います。私からすれば、うちの町内も半分ぐらいは女性でありまして、特別に男性だけがいつも決めているとか、そういうことは決してないわけですが、私の町内会は歴史がまだ36年程ですが、何十年、50年、100年続いているような古いところは、昔の考え方みたいなものが残っているのかなと感じております。私自身は町内会運営に関しては、これはもう当然、男女ともやっていかなければいけないということだと思います。今回、一番に出されたことが女性の活躍ということですが、家庭の中の理解なども必要なのかなと感じておりますが、我々の町内会みたいな自治会についてもどんどん女性の方に出てきていただきたいと思います。

女性の活躍においては格差の問題、私も何回もお話ししておりますが、やはり基本的には根底がなければいけないということで、男女の賃金格差はこの数値目標にはありませんが、その状態については絶えず把握しておいていただければと思います。

P D C A サイクルの視点で、どこで、誰が、いつ、これを把握しながら繰り返しやっていくかということと併せて、先ほども出ていましたが、やはり県民に対して、計画に基づ

いて県はこのようにやっているという発信が必要であると思います。

女性の自治会長の割合を2.1%から5.9%にするということですが、現在の会長達は県ではそういうことを考えていることについて、ほとんどわからないのではないかと思います。全国レベル、東北レベルでは秋田県の位置付けはどうかといったものを数値で見える化した上で、周知していくことが一番いいのかなと思います。

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

自治会長の目標については現状では令和元年度で2.1%、これが人数でいうと81人ということでありまして、まだまだ非常に少なく、目標としている数値の5.9%は全国平均となっております。実際に自治会の女性役員を増やすための、地域の女性リーダー育成事業というものを実施しておりますが、それとともに自治会向けのアンケートも行っており、その中でやはり見えてくる課題は松坂委員がおっしゃる通り、家庭の中での理解というところですね。それに加えて、女性は参加しにくいという地域そのものの意識、そういった固定的な性別役割分担意識が非常に根強く残っているというように感じております。そういった意識啓発を含めながら、実際に女性自治会長も81人おり、モデルケースがたくさんありますので、その方達がどのようにして自治会長になって、会長になっても普通にやっているところを啓発して、事業を進めているところであります。

また全体的なPDCAサイクルにつきましては、事業についてはまた来年度、新たに全庁的に様々な事を実施してまいりますので、来年度の審議会において皆様の方にご報告し、ご審議いただいて、そのご意見を頂戴しながら、見直してやっていくという形を考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○遠藤委員

この審議会に初めて参加させていただくので、なかなか雰囲気がわからないところではありますが、私は秋田県医師会の常任理事を務めておりまして、医師の立場から少し現状と、それから考えを述べさせていただきたいと思います。

今医学部、秋田大学もそうですけれども、4割ぐらいが女性になってきています。そして実際に今働いている総合病院においても、勤務している女性医師というのは、やはり3割程度いるというような状態で、診療科によって、その女性の割合というのは多少異なりますけれども、今は徐々に外科系の女性医師も増えてきているのが現状であります。女性医師は当然、結婚される方もおられて、お相手の職業が医師という方が非常に多いわけですが、やはり結婚された後、お子さんを産んで育てるというようになってくる時に、完全に仕事が男女半分ずつになっているかというと、ほとんどなっておらず、やはり女性の方に負担がかかっており、産前6週産後8週の休みもほとんど取れないような状態の中で、勤務をしているという現実がございます。

こういった中で、旦那さんの協力が足りないのかということ、必ずしもそういうわけでは

なくて、やはり問題なのは保育所なんです。子供さんを育てていくときに共働きである上に、当直もあれば時間外もある、更には呼び出しもあるというような中で、子供さんを安心して預けられる場所というのは十分とは言えません。病児保育、病後児保育、いろいろなパターンで市の方でやっていただいていますけれども、やはり週4回以上の勤務がないと保育園で預かってもらえないわけです。それに、地元の人ももちろんいますけれども、夫も本人も、県外出身の人が多いことから身内に預かってもらうというのはなかなか困難な状態であり、出産や子育てが思うようにできない現実があるというのが医者の世界であり、男女共同参画における問題点だと思います。

●事務局（教育庁幼保推進課）

今の保育の受け皿についての問題に関してですが、まず県内には、今年度の4月1日現在で22名の待機児童がおります。来年の4月1日については0名ということ、国の目標に則して進めているところであり、来年度から始まる国の新しい子育て安心プランにおいても、県内の待機児童数が発生しているなどの市町村に対しては、施設の改築などの施設整備の際には補助率がかさ上げされるなど、県内の保育の受け皿としてのハード整備については、さらに進んでいくものと思っております。

また、保育人材の確保に関しては、養成校に在籍している学生で、将来的に県内で保育士として働く学生に対して、返還免除つきの修学資金を貸し付けるなど支援を行っております。

○竹田委員

まず前回お尋ねしたところで数値目標を修正していただきましてありがとうございました。今回「ハラスメントの相談体制を整備した事業所の割合」という指標を新しく入れて、新しい調査をするというお話がありました。これまでの審議会の中で、そういう調査を今までしていないので、その指標の設定が難しいといいますが、これまでの推移を見ることができないというご回答があったように記憶しています。今回のように、新しい調査を入れていただいて、今までの実績というのは見られないけれども、これからの実績でやってみていくということを検討いただき、そして今回、指標として設定していただいて良かったと感じております。

今後はそういった点を踏まえ、新しいものを入れていく、調査に加えていくということをご検討いただきたいと思います。

もう1点は、このパブリックコメントを拝見して、性的マイノリティという視点をちょっと外に置いてしまっていたなと思ったわけですが、ただ、この男女共同参画推進計画がどこまで射程にしているかといいますが、何もかもすべてこの計画で何とかしようというのは難しい、当然予定できない話だとは思いますが。ただ、この条例の最初の柱のところで、「人はすべて、性別にかかわらず、個人として尊重され、法の下に平等で

なければならない。」というところから始まっていることからすると、必ずしも今までの典型的な女性の立場を擁護するとか、活躍を推進するというだけでなくとらわれず、もう少し広い視点で、そもそも女性の定義をどうするのかと思ったところです。

指標の中とかで、こういったパブリックコメントにある、いろいろな性的マイノリティ、あるいは生物学的に女性で異性愛者か同性愛者かということなど、そういうものを少し意識した指標というのは今後検討していくことになるのかなと思いましたので、そのあたりをご検討いただいた上で反映させていくことをお考えいただけたらと思います。

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

指標の「ハラスメントの相談体制を整備した事業所の割合」については、雇用労働政策課が担当になりますけれども、既存の労働条件等実態調査において、全体的な質問項目の中で、入れ替えをしながら統計をとっていくということで、対応することとしました。

今後、新たな指標を設定する場合には、こういった対応をすべきか検討する必要がありますが、できるだけ時代に合ったような形にしていきたいと思っております。

また性的マイノリティの関係ですけれども、県の条例もさることながら、男女共同参画社会基本法を制定した際には、国においてもまだ性的マイノリティという概念がなかった時代であることから、新たな課題というようにとらえておりまして、基本法、あるいは他の法律の中でもしっかりと定義やそれを含めた人権、あるいは個別法そのものが存在しない状況の中で、各県それぞれ独自に取り組んでいるという現状があります。我々もこれから、そういったところの配慮が必要だと感じておりますので、今後の議論の中で、しっかり位置付けていきたいと考えております。

○山名会長

性的マイノリティについては、これからますます捉え方や認識が変わってくると思います。ダイバーシティ、多様性ということで、もしかすると男女格差がみえにくくなるという議論もあり、言葉の問題だけではなくすごく難しいところだと思います。

あと指標の実績値について、新しくアンケートなどを実施することによって変わることがあれば、それもまた今後、継続して考えていただきたいなと思います。

●事務局（雇用労働政策課）

雇用労働政策課では、ただ今説明がありました労働条件等実態調査により、県内の労働の現場における女性管理職の関係であるとか、あるいは、労働現場におけるハラスメントについて、これからも各部局と協力しながら、こういった調査などを計画に反映させていきたいと思っております。

○木山委員

この計画全体を読ませていただき、せっかくだから身近なところで、地域にも、もう少し浸透させる方法が何かないかなと思い、考えてみました。その中で私の町内は50所帯くらいですが、各町内の総会とか役員会をやる時、ほとんどの参加は男性のようですけれども、当然、女性が参加しなければ、男性の意見で物事が決まるわけなんです。

例えば町内会長1名、副会長が2名、会計が2名などという形があるわけですが、例えば男性副会長が1人、女性副会長が1人とか、そういう選び方をしたらいいという提案は、できるような気がするんです。そうすると会議で男性独自の考え方だけでなくいろいろな考え方が出てくると思います。もっとこういう計画に関する勉強会なども自治会でやった方がいいかなという感じはします。

ですからどこを改善していくかと考えると、役員の形、人数、男女など、いろいろな意見が出た場合に、それをどのように採用していくかということだと思います。何かちょっとした行事があつて参加した時に、男性がここは女が出る場所じゃないという、言動があつたりして、怖いと思いました。中高年男性のその言葉の暴力というか、まだ改善しなきゃいけないところがあるをつくづく感じたりしました。せっかく時代に合った進め方をしようとしているときに、こういう言葉の暴力を受けて、うちの町内は結構、遅れているんだなということをつくづく実感させられました。ですから町内会というのは独自の運営になっているので、それを行政が少しでも風穴を開けるような取組など、何かできないんだろうかと考えたりしております。

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

先ほど松坂委員のご質問に対する回答と同じになりますけれども、個別の自治会に入り込んで、そういった意識改革をしていただきながら、すぐに女性の自治会長というのは難しいかもしれませんけれども、何らかの役員を経た上で、皆さんにより良く自治会運営が進むようにと働きかけをしているところです。

また、県庁の出前講座というのもありますので、こういった計画、そのままだと難しいところもあると思いますけれども、その自治会の集まる方達に沿ったような形で講座は可能ですので、ぜひお声掛けいただければと存じます。

○山名会長

広報とか研修とかをどのように具体的に進めていくかも、当然今後の課題となると思います。

それでは他に質問等がないようでしたら、時間の関係もありますので、質疑等はここまでにしたいと思います。本日言い忘れたことや言い足りないこと、今後お気づきになったことがありましたら、来週末の1月29日金曜日までに、事務局にお知らせいただければと思います。

本日いただいた意見等のほか、この1月29日までに事務局に届いた意見等をもとに、計画案を更に修正したものについて、審議会として知事に答申したいと思います。その確認等については、私に一任いただきたいと思いますけれどもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり。)

それでは、以上をもちまして議事を終了いたします。皆様本当にありがとうございました。進行を事務局に戻したいと思います。

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

ここで、第5次秋田県男女共同参画推進計画策定までの今後の流れについてご説明いたします。先ほど皆様から了承いただきましたが、本日いただいた意見等をもとに、本計画案を修正したものを山名会長に確認していただいた上で、本審議会からの知事への答申とさせていただきます。この答申した計画案については、後日皆様に追ってお知らせいたします。また、秋田県議会の令和3年第1回定例会2月議会の総務企画委員会においても、説明をさせていただきます。県議会からの意見も踏まえまして、3月下旬に計画を策定し、公表、周知することにしております。

ではこれをもちまして、令和2年度第4回秋田県男女共同参画審議会を終了いたします。本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。